

建設防災 ボランティアニュース 第69号

目次

- ・ 合同総合防災訓練
- ・ 河川愛護月間行事
- ・ 前期道路施設等点検
- ・ 普通救命講習会

平成30年度総合防災訓練！！

ー浜町公園に15名が奮闘ー

9月2日(日)午前7時30分頃、東京湾北部を震源とする震度6強の地震が発生したとの想定で、「平成30年度 東京都・中央区・港区合同総合防災訓練」が、中央区会場(浜町公園)、港区会場(お台場海浜公園ほか)、有明の丘会場(東京臨海広域防災公園)の3か所で開催されました。

訓練目的は「震災時の地域住民の自主防災能力を充実させ、地域一体としての防災力を向上させるとともに、これを支援する東京都及び各防災機関の連携強化による災害対応力の向上を図る。」というものです。

建設局からの協力要請に基づき、中央区会場(浜町公園)において、一建班9名、二建班2名、東部公園班1名及び担当理事3名の合計15名が、道路啓開訓練(佐野、平田、藤野)、展示・体験訓練(新井、堀中、藤田、田所、多澤、石坂、古川、高尾、上杉)に分かれて、訓練に奮闘しました。

浜町公園は関東大震災の復興事業により、旧細川藩の下屋敷に整備された中央区最大の公園であり、隅田川右岸にも接し、総合防災訓練にはうってつけの場所といえます。



当日は翌々日に大阪に上陸し、関西空港などに大きな被害をもたらした台風21号の影響で、訓練開始早々に降り出した雨が、10時頃には本降りとなり、厳しい条件の中での訓練となりましたが、終盤には晴れ間も見え、無事終了となりました。

知事、都技監お二人の講評後、ほぼ全員で人

形町に繰り出し、豪華な？昼食で喉を潤し、1時頃に解散しました。

参加された会員の皆さん、雨の中本当にご苦勞様でした。



担当理事 林幹生

道路啓開訓練・・・一建班

今回の道路障害物除去訓練の会場は、中央区立浜町公園北側に隣接する区道を都道10号線に見立て雨模様の中、実施されました。

訓練テーマは、「自助・共助」と連携です。想定地震の震源は、東京湾北部、規模はM7.3、深さは約20km～35kmです。

午前7時30分頃に発生した震度6強の地震(前震)により、都道10号線の中央区日本橋1丁目付近において、沿道のブロック塀の倒壊、電柱の倒れ、倒木、放置車両等により道路が約20mに渡り閉塞されたという設定です。

訓練開始直後、佐野、平田、藤野の3名のボランティアは、被害状況調査のため周辺の道路状況を確認しながら現地へ向かう。到着後、被害状況把握のため、スケール等によりガレキの散乱範囲、倒木の形状、電柱の径と長さをスケールによ

り計測するとともに本数を把握して野帳に記録する。最後に巡回車により現地へ到着した点検班員に調査の結果を報告しました。訓練開始から僅か4分程度の出番でしたが緊張感をもって取り組むことができました。



以降の訓練の流れは、次のとおりです。

協力業者に道路障害物除去を要請⇒道路障害物除去作業開始⇒救助先遣隊(警視庁、東京消防庁のバイク隊)の通行路確保⇒救助先遣隊の進出(作業一時中断)⇒道路障害物除去再開⇒一車線分の通行路確保⇒消防庁ポンプ車、警視庁車両、自衛隊車両の通過⇒ガレキ積み込み、作業車両撤収⇒訓練終了

この後、都技監の講評と局幹部、防災ボランティア会員の記念撮影を行い解散となりました。

本日の訓練を通じて感じたことは、日常から危機意識を持ち、実践的な訓練を積み重ねることが、いざという時に的確な判断、迅速な行動につながるものと確信しました。

一建班 藤野文隆

展示・体験訓練・・・東部公園班

今年の総合防災訓練、中央区会場は浜町公園でした。この浜町公園は、関東大震災後の帝都復興事業で完成した三大公園(隅田公園、浜町公園、錦糸公園)の一つという歴史的公園です。

開園は1929年(昭和4年)で、以後の東京都の公園設計に大きな影響を与えた公園です。まさに防災史上メモリアルな公園において、東部公園緑地事務所の「震災時における公園緑地の役割」パネル展示の解説業務に参加しました。時折降る

雨の影響からか、テント内は盛況で、特に恒例の



火に強い樹木、サンゴジュ、サザンカ、マテバシイ、ツバキ、イチョウ等の展示には、多くの方の関心を呼びました。

西倉都技監からは、「こうした機会に、繰り返し、都立公園の防災上の役割をアピールすることは、建設局としても重要だ。」との力強いお話をいただきました。

東部公園班 上杉俊和

雨の中の活動



雨中のロープワーク体験

建設局ブース



ポンプ車展示担当のお二人



犬もカッパで



今年も各地で河川愛護月間行事

―酷暑の七月延べ 63 名が活躍―

台風21号に続き24号が上陸し、日本列島を縦断したものの、東京は大きな被害が出ませんでした。進路など運が良い面もありますが、治山・治水事業の長く、たゆまぬ努力の成果でもあると思います。今後の事業レベルアップにも期待します。

今年も都内各地で河川愛護月間行事が開催されました。残念ながら今年で2回目、井の頭公園での「かわフェスタ」が台風の影響で中止になりましたが、7月の酷暑のなか、下表のとおり参加された延べ63名の会員の皆さんお疲れ様でした。

(1) 川を歩こう

河川名	開催日	事務所	会員	都民等
旧中川	6/2	治水	3名	70名
隅田川	7/1	一・五建・治水	3名	77名
石神井川	7/7	六建・四建	3名	64名
南浅川	7/14	南西建	2名	30名
多摩川	7/12	西建	3名	22名
計			14名	263名

(2) 川のパネル展

場 所	開催日	会員	都民等
一庁 45 F 南展望室	7/5～10	12名	2493名
新宿西口イベントコーナー	7/23～26	12名	2536名
計		24名	5029名

(3) その他

行事名	開催日	事務所	会員	都民等
環七地下の巨大トンネルを体験	7/21	三建	5名	136名
野川ちびっ子先生集まれ	7/2	北南建	6名	98名
わくわく川清掃 & 川あそび	7/16	北北建	3名	450名
夏休み多摩川教室	7/24, 25	京浜河川	4名	942名
かわフェスタ	中止	河川部	0	0
川のシンポジウム	7/31	河川部	7名	138名
計			25名	1764名

担当理事 高橋紀男

地下トンネル内って意外と涼しい・・・三建班

7月21日(土)、善福寺川事業センターにおいて、河川愛護月間関連行事の「環七地下の巨大トンネルを体験(環状七号線地下調節池)」が開催されました。この行事は大変人気があり、当選倍率が高いものとなっているようです。

当日は猛暑の中、選ばれた136名の方々が参加しました。4班に分かれて、1班1時間程度で地下調節池を見学、体験しました。



まず、三建の職員が会議室で地下調節池の概要を説明し、展示室では模型により流入システムを、中央操作監視室では機器・装置や操作について説明しました。そのうえで、機械棟から基本的には階段で、高齢者など体力に自信のない方はエレベーターで地下トンネルに入り、その中ではトンネルの概要を説明するとともに合図のもと照明を一斉に消して真の暗闇を体験してもらいました。また、次週には隅田川の花火大会があるということもあり、今年初めての取り組みとなります、プロジェクションマッピングで花火を鑑賞してもらいました。その後、地上でアンケートを記入してもらい、水圧扉(水位20cmと40cm)の開閉も体験していただきました。

建設防災ボランティア協会会員は、井出、加藤、瀧澤、中田、望月の5名で、当日の役割は、急遽欠席する方からの電話受付・報告や参加者へのアンケートの配布・収集、水圧扉の体験へのお手伝いなどでした。

参加者からは、「わかりやすく教えてくれて、また行きたいと思った。」や「トンネルの大きさにびっくりした、思っていたより涼しかった。とても楽しか

ったです。花火きれいでした。」「普段見られない場所を見ることができ、また、大雨など災害に対して備えがあるという事がわかり安心した。」などの意見・感想をいただきました。水圧扉の体験では、20cmの水位では子供や女性でも簡単に開くの、40cmでは男性でもなかなか開かないことを実感されたように思います。



西日本豪雨などに見られるように降雨状況が大きく変化している中で、こうした見学・体験を通じて、河川や地下調節池の整備をはじめとした水害対策等について都民の理解を深めていただくことは、とても大事なことだと思います。

今後とも、建設防災ボランティア協会会員として積極的に協力していきたいと考えています。

三建班 望月 裕

わくわく川清掃&かわあそび…北北建班

日 時：7月21日（土）10時～13時

清掃場所：黒目川（神山大橋～門前大橋）約700m

川遊び会場：黒目川右岸小山れんげ公園

参加者：河川部6名、北北建8名、協会員3名



野崎元、藤井健介、吉原一彦

「今年も黒目川であそぼう!」をテーマに開催された川清掃と川あそびに参加しました。

連日猛暑が続く中、今日も朝からカンカン照りにもかかわらず、集合場所の東部地域センターに9時50分には全員集合。実行委員の挨拶の後、清掃用具を受け取り10時から清掃を開始した。

神山大橋から二手に分かれて両岸の高水敷に降りて上流に向う。黒目川の水量は例年より多めで豊かだ。水は澄み切っており沢山の魚が泳いでいる。ゴミを拾いながら、時々川面を眺め一時、

暑さを忘れる。ゴミの量は例年より少なく感じた。後で実行委員長の菅谷さんにそのことを話すと「最近では市民の方がゴミを見つけると自主的に拾ってくれるんです。そのお蔭かも知れません」と。川が綺麗になればゴミを拾う人が増え、ゴミを捨てる人もいなくなるという好循環を期待したい。予定より早めの10時40分頃に門前大橋に到着し、清掃を完了した。

上流の川遊び会場に向かう途中、まだ清掃しているグループの姿が所々見られた。11時頃に会場に到着、既に清掃を終えた久留米西高生や子供連れの近隣住民など大勢の人が集まっていた。ここで無料配布の豚汁やパンをいただきしばし昼食休憩。

12時20分頃、景気づけの太鼓演奏の後、菅谷実行委員長、並木東久留米市長、若林所長等の挨拶があり、いよいよ川遊びの開始だ。満を持して待機していた子供たちが川に殺到する。タイヤボート乗り、竹の一本橋渡りなどに果敢に挑戦していた。



子供たちが川で遊んでいる光景を見ると、これまでの河川整備が市民に受け入れられている

ように感じられ正直うれしく思った。イベント参加後、3年前まで会場だった落合川にも足を運んでみた。ここでも水遊びしている子供たちが沢山いた。

北北建班 藤井賢介

「川を歩こう」多摩川コース…西建班

雨が心配された天候も曇り空で、青梅線鳩ノ巣駅にスタッフは8時45分集合しました。

受付準備・打合せの後、駅前広場で9時半から参加者の受付を開始しました。出戸西建工事第二課長の挨拶、準備体操を行った後に、奥多

摩観光協会「名人達人ガイドの会」の案内で三班に分かれ出発しました。

当日の雨天を心配されて参加者はちょっと減って30名、最高齢者は80歳とのことでした。

ボランティア協会西建班からは、山縣、東野、谷村の3会員が各班に配属され参加しました。



最初に向かった先は、多摩川に架かる吊橋雲仙橋で、橋の上からは岩を噛む鳩ノ巣溪谷の素晴らしい眺望が楽しめました。

そこから溪谷に下り、江戸時代に材木を切り出していた鳩ノ巣の地名発祥の由来の説明を受けました。溪谷の高い岩の上へ登ると水神社が鎮座しており、溪流を覗くと足がすくむほどでした。

そこから上流へ向かい鳩の巣小橋で対岸へ渡り、白丸ダムに設けられた魚道を目指しました。溪谷沿いの遊歩道には、玉アジサイやヤマユリが所々に花を咲かせ、参加者を和ませてくれました。

園地への急な階段を登りきったところで小休止を取り、廣瀬工務担当課長代理からは河川愛護を染めた手ぬぐいの説明がありました。

その後、参加者は白丸ダムへと向かい、白丸魚道では長い螺旋階段を降りてアイスハーバー型の魚道を見学しました。展望台に戻ったところで、全員で集合写真を撮り解散となりました。



ボランティア会員は、鳩ノ巣駅まで戻り、「そば処鳩美」で反省会を行いました。蕎麦、カツ煮は勿論のこと、自家製キュウリ、ラッキョウの漬物も美味しく最高でした。

西建班 谷村秀樹

「川を歩こう」石神井川コース・六&四建班

2018年夏はとんでもない夏で、関東地方だけ梅雨が6月19日に明けたこと。これは平年に比較して23日も早く、6月中に明けたのは初めてのことである。さらには、台風7号の影響により、西日本に平成最大の水害、土砂災害が発生し多数の死傷者がでるなどの甚大な被害となってしまったことである。

「川を歩こう(石神井川コース)」のイベントはそんなさなか川の日である7月7日(土)に催された。台風7号の影響があるときで、雨降りが心配されていたが逆に晴天で熱中症対策が必要なほどであった。板橋区役所を出発した10時には、多分30度を超えていたと思う。参加人員は64名。エントリーしていたゲストほぼ全員が参加した。

このイベントは毎年四建、六建が共同で開催しており、今年は六建が主幹事の年であった。スタッフは四建から荒川工事第二課長ら7名、六建からは植村所長、小池副所長ら14名、河川部3名、防災ボラが荒井さん、増澤さんと私の3名、合計27名であった。行動は3班に分け、1班当りそれぞれ21~22名のゲストに9名のスタッフで案内する。以前はこのようなイベントは係長級の職員が説



明しながら歩いていたが、最近では若い職員に説明を任せ、管理職や代理級の職員は補助に周るというスタイルで、若手職員が研鑽をする良い機会になっているようだ。

そこでの私たちボランティアの役割は、年齢の近いゲストと川にまつわる昔話や経験談を話しながら歩くことで、現役職員の案内の手助けになればと考えている。ゲストは8割が女性で、2,3人のグループが多いのだが、井戸端会議するのではなく、熱心に説明を聞きながらの方々が多く、喜ばしい限りである。特に水害のニュースが毎日流れるので、防災の話を熱心に聞いてこられた方も見受けられた。こうなると我々ボランティアの出番で昔話も含め、歩きながら熱っぽく語ることができ

る、自分の意識向上もでき大変有意義な1日であった。特に私は 40 年も前に設計を担当した石神井川の整備状況を見られたのは大きな喜びであった。



こうして猛暑のさなか、4km弱の歩こう会は落伍者なしで、無事 12 時半ごろ終了した。また、来年も参加しようと思う。

六建班 長島修一

野川のちびっこ先生集まれ・・・北南建班



北南建班 池田繁敏

東京の川を考えるシンポジウム 2018

今年のシンポジウムの基調講演者は、法政大学・人間社会研究科の保井美樹教授で、タイトルが“水辺のエリアマネジメントを考える”でした。また、パネリストは、台東区の隅田公園でオープンカフェを運営しているタリーズコーヒーの知久氏、両国で水上バス待合所等のスーパー堤防の再開

発事業を行っているヒューリック㈱の中村氏等の方々でした。

当日の受講者から、「河川部にしては軟らかい人選」、「今年は面白かった」等の意見があったように、興味深いシンポジウムでした。

私が河川部の副参事当時、『水の都再生』の一環として、オープンカフェの社会実験を行いましたが、結局オープンカフェの本格開店は実現しませんでした。今回シンポジウムを聞いてみると、その原因は、当時の墨田区長や局の総務課長の反対だけでなく、河川側からまち側への一方的なアプローチだったことが、よくわかりました。

河川を「身近な水辺」としてまちづくりのなかで生かしていくためには、基調講演やパネル事例のようなエリアマネジメントの発想が必要と痛感しました。

南東建班 若尾啓介

前期・道路施設等点検終了

前期「道路の施設とバリアフリー点検」が6月18日から7月27日まで行われ、会員62名が参加しました(下表)。参加された皆様、暑い中ご苦労様でした。後期は11月～12月上旬に予定されています。よろしくお願いいたします。

事務所	実施日	参加協会員
一 建	7/13～7/27	4 名
二 建	6/22～6/29	6 名
三 建	7/13・18	6 名
四 建	6/21～6/27	10 名
五 建	6/18・22	2 名
六 建	7/12・19	3 名
西 建	6/20～7/13	10 名
南東建	7/4	8 名
南西建	7/25	8 名
北南建	7/11・7/20	2 名
北北建	6/28	3 名
計		62 名

担当理事 久保田元久

今年の点検は 暑い!!! …西建班

今年度前期の道路施設点検は、6月20日から7月13日の間に国道411号、青梅街道、五日市街道など6路線20区間で実施されました。

このうち当協会西建班からは、小山弘光、佐藤肇、田中、河合、小林、清水、高橋、東野、稗田、谷村の10名が参加しました。今年度は6月末に梅雨明けとなり、暑い中での点検となりました。

小山会員が参加した3班は、6月26日に国道411号の青梅二小～大仁田橋まで往復6kmの点検を行いました。ガードパイプの破損や境界石の陥没、バス停点字ブロック未施工箇所など6か所ほどの不良箇所がありましたが、道路施設はおおむね健全でした。

今年度新たに入会した東野会員を含む稗田、谷村会員が参加した8班は、7月2日に新青梅街道の青梅市民会館南交差点～多摩川保健所入口まで往復5.6kmを点検しました。

ガードパイプの破損・変形箇所6箇所や歩道に雑草が繁茂している箇所等が多く見受けられました。その他に点字ブロックコンクリートの剥れなど6点を含めた点検結果を報告書にまとめ提出しました。

今回は暑い中での施設点検でしたが、参加された会員の皆様大変ご苦労様でした。



8班スタート

地点で竹川班長、松田主事、東野、稗田、谷村の各会員

西建班 谷村秀樹

普通救命講習会開催

9月18日(火)午後、普通救命講習会が新宿消防署にて開催され、新規講習者2名、再講習者

14名の計16名が参加しました。東京防災救急会の石塚講師と野島講師の、熱心で分かりやすく且つユーモアある説明と指導のもと、3時間弱の講習後、無事に全員が救命技能認定を受けることができました。

心肺蘇生の実習は、付近の人に大声で協力を求め、119番通報とAEDを依頼した後、人形を使って胸骨圧迫と人工呼吸を5回繰り返すという、



かなり体力を必要とするものでした。またAEDの実習では、2人が協力してAEDの操作と心肺蘇生を繰り返すという、非常に実践的なものでした。

最近は当協会ばかりでなく、地域の催し等で救命講習を行っていることもあり、年々受講者が減少傾向にあります。次回は来年になりますが、まだ受講されていない会員はぜひ予定していただくとともに、前回の受講から3年が過ぎている再受講対象者も積極的に受講されるようお願いいたします。

担当理事 二宮克弘

ニュースでは知るけど、身近ではなかなか経験しない救命活動。講習会に参加した会員に経験した事例の投稿をお願いしました。

「今でも胸が締め付けられます」

今から31年前のことです。思い出すと今でも胸が締め付けられます。

私は、そのとき38歳。主任異動から2年目で事業局の企画調整担当として各区市町村、局間・局内の調整の仕事に就き、忙しく過ごしていました。新しい仕事を早く覚えようと周りのことに十分気が回らず過ごしていたことを思い出します。

ある日、隣の課の職員が勤務中に急死しました。新規採用2年目のおとなしく、やさしい、いつも控えめな青年で、私も仕事でよく会っていた間柄でした。彼は気分が悪くなって、皆から勧められて、

ようやく病院に行くと言って職場を出たきり、其のまま帰らぬ人となってしまいました。なかなか帰ってこないで、みんなが彼をさがし始めたころ、彼が庁舎1階のロビーで机にうつ伏せになったまま息絶えていた姿が発見されました。救急車で病院に搬送されましたが、既に手遅れでした。

皆、それを聞いて言葉を失いました。なにか救う手立てはなかったのか。自分も何かできたのではなかったか。

当時は、現在のように、救急・救命に関する知識が普及していませんでした。

今回、防災ボランティアとして、普通救命講習を受けたのは3回目でした。まだ、スムーズに救命措置ができません。年のせいにはしたくありませんが、情けなくなります。頭には彼の顔が、私を眺めている姿がみえるのです。もっとうまくやらねばと思うのですが、「早く助けてくれ」と言う声に応えたいのですが、まだまだです。

一建班 田所伸夫

「残念なこと」

同期だった K 氏は、56 歳の時、心筋梗塞で死亡した。本年 6 月、学科の同級生 20 数名は同窓会の後、自宅を訪問し、7 回忌をしたばかりである。

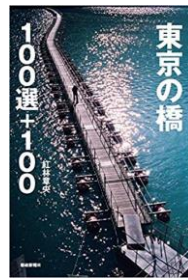
彼は以前、東京の P 出版社の編集長をしていたが、激務の会社を辞め、那須烏山に引っ越して農業をしていた。若い時から趣味としていたサイクリングに出かけ、走行中に心臓が止まってしまったという。

意識がなくなってからも、自転車で 2 車線道路の反対車線まで横断し、路肩外の水の無い用水路に転落、時間が経ってから発見された。車の往来も多い場所なので、発見が早く、救命講習を受けた人がいればと悔やまれたが、運の悪さを嘆くばかりである。

四建班 荒井一朗

会員からの情報

日頃から「隅田川著名橋等ツアー」等で、大変お世話になっている、道路建設部の紅林橋梁構



造専門課長が、この度「東京の橋 100 選+100」（都政新報社、定価 1800 円）を出版されました。橋梁に関係する者のみならず、東京の景観として眺めても見応えのある貴重な冊子と思えますので、ぜひご一読ください。

五建班 興水昭秀

協会からのお知らせ

- ① 「隅田川著名橋等ツアー」の研修会を 11 月 28 日(水)、道路整備保全公社 17F 会議室で予定しています。
- ② 砂防講習会を12月17日(月)に道路整備保全公社 17F 会議室で予定しています。
- ③ 各班の活動報月告をお待ちします。ぜひ下記編集担当理事又は林まで連絡願います。林アドレス(mikio.hayashi@okumuragumi.jp)
- ④ 協会の H. P(東京都建設防災ボランティア協会掲示板)に、最新の情報、バックナンバー、建設局報などが載っています。ぜひご覧ください。アドレス(<http://tokyo-adv.info/>)

編集後記

久しぶりに普通救命講習会に参加しました。新しい企画をと考え、会場で参加された皆さんに原稿をお願いしたところ、2 編の貴重な、そして胸を打たれるお話を頂きました。私も若くして亡くなった親族や友人を思い出します。還暦を迎えることが出来た私たちは、これからも彼らの分まで、充実した老後を生きることが大切と感じました。

発行人 杉浦 浩

発行 東京都建設防災ボランティア協会
新宿区西新宿 2-7-1

小田急第一生命ビル 20F

(公財)東京都道路整備保全公社内

編集 佐野正生、高橋紀男、林幹生、
堀内康彦、丸岡敏夫

